

20 de Marzo de 1937

El "Argentin Dijo". Año XIV. N° 67.

(四)

西蘭佛

映画館で右と左の大乱却
首相自ら現場に急行

(一九二九年六月二日午後)
九時、パリー郊外のクレ
シーオの畠画館でアーヴィングの統領
ロツク中佐のフランス社会党が集
合を開いて居た際、左六千の共産党
員がデモを行ひ、畠画館附近で双
方入り乱れて物語の大乱闘が演せ
られたり。
先報に接し警官隊が大拳出動剝
止に努めたが、猛り狂つた暴徒は
止々激昂、石、ベンチ、柵等手当

発砲、死者六名、重輕傷者約百廿十名を出した。

事態重大化にブルム首相が深夜に拘らず自ら現場に急行、激昂して群衆鎮撫に努めたが、首相に隨行した首席秘書官アンドレ・ブルムは負傷した。午後十二時前後に到り警官隊必死の努力で、幸ふじて治まったが、一九三四年三月暴動以来の大騒動であると云はれる。

この日帝都は西宮殿下の御代の
御庭島立と御祝甲上げるかの如く
和やに霞が赤春色にみち、全
市全戸は日章旗立ひ、さて御出発
を祝ふる。

結城増税は有産階級に輕く

(支社) 郡三長谷水
擊攻左化大核賈軍

帝共に貢急外更分本上へ

東京十八日、増税案提出の十八日の衆議院開会、直に日程左欄に臨時租税増徴法案西閣係案互一括通上程、増田委員長率てに結果の経過並びに結果の修正案三吳と附りて報告、政民昭和同の修正案三吳と附りて報告、政民昭和

上叫び、次いで軍部予算か斯る暫
税の總と互含み込んでゐると説り
て軍事予算増大化の攻撃に移り、
“だ大ある軍事費は國民大眾を窮
絶せしめる以外の何物でない、
我々近国防費互に極大化せしめた
らいいが、我々は國民大眾を窮
絶せしめる増税には絶対反対で
ある、國防の充實互に困るからば
國民大眾の負担とふる資本家、
地主に対するのみの増税に頼る

(ハローランド) 前英帝ヴィンセント・
シンプソン夫人の御結婚問題に
就ては色々取沙汰されるが、公は
当初の御誕生日通り。四月二十七日
以後夫人に関する離婚訴訟が効力
確定する左様で、あるべく早く御
結婚の御模様で、右に記す英國宮
内省筋で二十日。
ヴィンセント・公とシンプソン夫人
との御結婚は出来るだけ近い
方で実現するだらう

（東京十八日）友邦英國の牌し
さ御盛典、ジョーが六世陛下並に
同皇后陛下の戴冠式に最も我が
天皇陛下御名代として御参列の候
父の宮、同妃殿下には春光麗りが今
日十八日、英帝に御贈進の大勲位
菊花章首飾・同皇后に御贈進の勲
一等寶冠章互御携行、八重の沙路
左途りく一路御東航、カナダ互經
由して英京ロンドンへと晴れの鹿
島立ち互遊はざれど、

英皇帝陛下戴冠式御参列の爲

東京御出發

同駅には勅使百武侍從長
皇室陛下御使佐膳
大夫・皇太・后陛下
御使大谷大夫左近
め各皇族殿下・林

首相以下各国務大臣・前官礼遇以上の頭官・クライ
ブ英大使・ブルースカニア公使以下各国外國使臣等御侍り上昇る
中ド・皇族御通路より階上壯丹の
間に入らせられ、御少越の後林首
相以下前官礼遇以上並びに各國大
公使等に謁見賜り、次いで三陛下
の勅使御候、皇族方に御面面・御
見送りの御挨拶互受けさせられ、
同四十分御乗車、定期午後一時四
十五分亡駆編成の臨時列車は辰爾

論に入り 反対論の先陣を承つて
水谷長三郎（社会大衆）登壇
まづ結城藏相の増税技術が有能
者階級に對して極めて瘦瘠であり
無産者階級に對して大肱果敢である
と攻撃し
“今回の増税はその間接と直接と
左同はず やがては勤労大衆の
負担とふるものである”

 KEROFIX DEL SRALEMAN (MARTIN)	 は め り 丸 廿四日入港 廿九日出港
ツ人で ツ人じみの ドイ プランチヤ樹カ ルデーラ用カケ マドーレス、デケ ロエシ製作販賣 修繕取付交換安 便引受ケ、當方 仕カ一ガボルカ ンシ勧りてみた パフリカ	 PACHECO 3260 U.T. 51-3252

事辭不の前空部法司

押收の賃札持ち出して
本省のお役人が本牧で巡回

に賛成したと云ふ。試験官が押収すると共に同人を云ふ様有る事。連行取締へると、意外にも同人は件で、当の血。現に司法省会計課風山本英男(三)と云ひ、東京控訴院詰めと云つて審の仕にある。

褐色遊戲

この少女達は制服の上にオーバー
を着て、巧に文豪の如く粧つて裏
屋に出入してゐたのである。

新北市印象記

妖花の輸出に禁止の防壁 國際的婦女誘惑の魔手に

内務省一齊檢舉の猜へ

居中止にくりれろざりめ。父兄が
學校當司をアツと云はせこゐる。
象瀬署では近頃、茂草六区の芝
居小屋の樂屋におかづばの女學生

の家庭の令嬢
の帰途、或は
つて六区に入
ちこちの東部
福井左めぐり
る色の火遊び
分つたので、
く嚴重に説教

上海、香港を始め海外の都市に咲き狂ふ妓花の中に、大和撫子が相当多いのは國辱で、内務省ではえ等異國に咲く妓花掃滅の計画を立て、予て調査を行つた際、その殆んど大半が國際的ひ人妻賣の魔手にあやうらば身賣してゐるところが分つたので、このゝ婦女子密

阪府外事課では府下各署に通産委
發し、過去六年间に於ける國際的
婦女子賣賣の詳細な調査を進めて
ゐるが、現在同課に達してゐる回
答だけで既すでに四百名を突破し
てゐると云ふ想へべき現狀で、
彼女等が賣られてゐる先は哈尔滨
瀋陽、新京、上海、香港、シンガ

ボーリルふとでハルビン、上海店
最と多く、何處も國際的風氣廣
の、にござ江、は奴隸的が生活
を行ひて居り、こ處等の前身を
調べると大低女給、ダンサー、
仲居など、國際婦女賣買プロ
トカの甘言にのせられ、莫不
本收入を夢みて、千五百円が生

二千円前後の身代金を賣られて行
つたとの事。一度彼等の手中に落
ちると、骨の髄までしゃがり、
ヒリヒリと云ふ燃焼瓦数々の物
語りを織交せて居り、当局では
此等更賛ブローカーの一奇横舉
に着手するとの見らしである。

「わが映画界最近の兴味は、新らしい士との制作である。山の映画で部は、あるアーヴィング博士が色々トイツカウまで日本俳優を使つての劇物映画であり、出演俳優と川雪洲始め白浪から小杉勇、中村吉次、高木永次、原節子、セイ、夏久

所急の党政

金
は

一休何處か出らか

後は山本條太郎がその後を相続し、森格がワキ役を努めて居りた。小條や、森、仙石が党内で不可思議な威力を振舞つてゐたのは此れがためで、急所を解剖するには不思議

體が躍起に押出して来たものであ
る。

高高引思の真因

望月主介、前田米吉、島田三郎
と皆、小泉の仲間であり、余便

(六頁から續く) D.C. から英語
合子、東京發声から市川春代と云
ふわが映画界始まりての變つた集

大口資金の出資者

(二)

原敬が大蔵省の威力を恣に出来たのは自身で古河財閥を振り一面向野田大塊を通じて三井との連絡がとれるのを為めだ。野田は井上馨に取入り、三井の主権者と通じ一方には福岡財閥をまとめて、いつ選挙ごとにその方だけで三十万やそこらの金は調達してゐた。野田の力が政友会内でも左さがしてゐたのはそのためで、今は政友会と福岡財閥との連絡は松野鶴平が相続してゐる。

この大口の金はどうして授受されるか、これこそ急歴中の急歴で当争者以外に分るとのではあり、それだけに政党側でその衝に当る人間は党内外の威力者と云ふるわけだ。民政党と三井は永い間、仙石が、その後で町田の代とあると之れは直接連絡してゐる。

三井と政友会は野田大塊のをま

れる場合が多い。その数万の機
合を心配して要心してゐる訳だ。
金持の政界進軍
金さへ出せば政党はとうだん
動き、代議士立候は起しすること
場末の不見薄同様とぶりた以上、
金のある奴が勢力を占め、如何に
大政治家だと金に縁がふくらむは勿
振りのきがあくがあるのは決りた話
当然の順序として次は金持の政治
道業が始まる。金さへあれば政治
は自由に動くのだから、どうせ政
党に献金する位あら自分で一つ來
出して見ようと云ふ野心が起つて
くる。そこへ野心満々たる老猾党
人は、こりりと鷹にして自分の勢
力を張りうるとか、るから金持の政
界大進軍が始まつた。これが大正
初期の現象で百名無名の土豪或金

金持の政界進軍

左くれて所謂親分幹分済家の型を作つたそのと中稿だ。中稿以前に乞勿論金で繋ぐ親分幹分はあつたが、此れを純然たる金一方の関係に仕上げたのは中稿が始まりと云ふべし。

そこで金のふり幹部を何とか金左作らねば生存が出来なくなりをかくこ始よりたのが政治左相場に利用することへ相権左満利資本家と結託する方法だ。政治上相場を巧に利用して成功した策頭は小泉策太郎、續りて横内行雄、近頃では久原房之助、中島知久平、小さじ處で堤康次郎がとだりう、

小泉は大正八、九年の好況時代、大運取引所で一舉に何百万の金を掴み、東京・大阪の市場で其相当泳ぎ廻りて此れを党内の原反にバラ撒き、成金的勢力を党内外に植へつけだ、死んだ畠田千太助、今の

田中義一の経費就任は三百万円の持参金つきだと評されたが、大正十三年貯戻六十万円が唯一の条件で、高橋は小泉にその約半の裏書を迫らせて摘要を起したのが直接の動機とありてゐる。高橋は柴崎左衛門、少からぬ私賊迫使出してゐるに拘らず、更に六十万円の追加支拂を求めて、ぐずぐずすれば無一文の丸裸。そこで正真正銘の透磨にありねばあらぬ羽目にありた。小泉の云い分を聞いてみると、家屋敷近抵當に入れて努力した様にあるが、それ程近に政友会のために盡したか、どうか、岡崎邦輔ふとは死ぬまでこの六十万円に疑惑を持ち、小泉に好意を持ち得なかつた。(大号完結)

三

全體に日本を美くしいが上の
と美くしく見ようとする態
度には感謝しきり、かと知れぬか
登場人物は皆只概念でナビづけられ
てゐる。而して各處の鈍重ぶ演技
と斯うした感じ左倍加させるよす
かとぶりてゐる。美くしいのはリ
ヒアルト、アングスト技師のカメラ
である。勘くとどこ此程美くしい
撮影技法は未だ日本で用ひらぬあ
かりを、後段火山の幾シーンでそ
の美くしに醉へる、その美くしさ
は時には事件を邪魔にさへ感せさせ
せる程であり、結局終指揮クアン
ク博士は山の美寫記載的方面に於
ける監督手腕は絶大だが、劇物監
督としてのその造形に落ちるこ
とを感じさせる。結局日本映画と
してから佛作りで魂入り損ねた作
か。因に河畔画は東京で二月四日

全體に日本を美くしむが上の
と美くしく見ようとする態
度には感謝しきり、かと知れぬか
登場人物は皆只概念で片づけられ
てゐる。而して各處の鈍重ぶ演技
も斯うした感じを倍加させるよす
かとぶりてゐる。美くしいのはリ
ヒアルト、アングスト技師のカメラ
である。勘ぐるとこの程美くしむ
撮影技法は未だ日本で用ひられなか
つた。後段大山の美シーンでそ
の美くしに醉へる、その美くしさ
は時には事件を邪魔にさへ感せさせ
せる程であり、結局總指揮クアン
ク博士は山の美寫記載的方面に於
ける監督手腕は絶大だが、劇物監
督としてのそれの途がに落ちるこ
とを感じさせる。結局日本映画と
してから佛作りで魂入らし損めた作
か。因に河畔画は東京で貰田日
より市勧、大勝館、武藏野館で一齊對打。

20 de Marzo de 1937

El "Argentin Djijo"

Anno XIV No. 671 (8)

届新されるか

武港管理制度構

海軍省官吏委員長とする無国籍船
組織委員会に於ては手と政府の命
により都市港湾管理の缺陷を除去
すべく研究の歩を進めてゐたが、
この程政府宛「アエロスアイレヌ港組

付へ提出さる——
治裁構として取扱ふべきを主張し、
省の實權下に自體に於ては農務
説し、通商的観地よりしても大
陸船相謀長、農務省商務課長及び
即ち武港稅關長、武港々津課長、武
港船相謀長による武港管理委員八名一
任命による武港管理委員八名一

民間エリ商船輸入輸出通運等の
同業商社より各一名会計八名一
りある合議によつて港湾大勢を心
理すべきだとの機構組織案で、經
常費として輸出入税以外の税済收
入五此に当てる率としてゐる。而
して移民事務は関しては現在の移
民局を廢し、水上署吏員を以て此
の任に当らしむべき革正主張し
てゐる。

スペイン医学界の泰斗 G・マラニオン博士の來亞

同案は現在の武帝淺湾管理機構に
一大刷新正直さんとするもので
果して政府が同案を採擇するや
否やは將來のことは居するが、同
案は出發矣としてブエノス・アイレス
港は一億三千九百万ペソの資本を有
し、一九三四年度に於て一千六百万
ペソ即ち資本に對して一割一歩五
厘の利潤をあずたが、淺湾經營の
合理化によつて更に多々能率増進
合

豫算二千万ペソ内外で
新に建つ市政の殿堂
市廳舍新築場所はリバグニア公園前

近き将来には人口三百万にもあら
ふと云ふ此の大アエス・アイレス市に
相應しハ市廳舍を建設しエラと云
ふうでこの程、リバグニア街四七
〇〇番リバグニア公園に面した基
テビデオに來訪し請
議をあししながら、今度
は當地のスペイン文化
協会に於ても同博士

至武市に招いて精神医学上々講演
を依頼することにあつた。
世界の豪傑ドンラアン、カサノーベ、
それからスペイン女ージアシードの典
型カルメン等の文學的性の精神分
析を当地めテ、ナシオン紙上に發表
して好評を博し、アナコンダ書店の
廉價版によつて「アミエルの日記」に
基づいて性的羞恥について新しい鏡

斗争の來亞

建築する事とあり
取崩してそこには
豪華近代的ある
市政の殿堂互連

工最近市で買収する事とあつた。
建築設計その他に就ては未定であ
るが市當局の意向としては摩天樓
式の高層建築様式を避け、地下
室附三階建の「ランス」様式を採用
せんとする模様であり、平等は二
千万ペソ玉下らずと見てゐるが市
廳舍建築案は就ては市議会の協
寮の視野を示した。マニエラ博士は
日本で云へば森鷗外、否それよりも更
に医学的文學的に高い地位に在る國
際的人物として名高く、その来亞
は医学界は勿論、讀書子の間にも
大きるセンセーションを巻き起し
てゐるが、博士は未遇初めに武
市到着の早定である。

中川商店	市内スアレス街一三〇番 電話二一(ラツカス)〇八六九	日本座敷文化住宅建築 大工指物師山本玄 Gra de Tejar No. 12 cc. P. 241 (Mauricio) 3150	中川商店	中川商店
中川商店	中川商店	中川商店	中川商店	中川商店
中川商店	中川商店	中川商店	中川商店	中川商店
中川商店	中川商店	中川商店	中川商店	中川商店
中川商店	中川商店	中川商店	中川商店	中川商店

20 de Marzo de 1937

同様古三人人の心も改めてはい、師走の無人社会に暗黙的而
詰題を提供した中七十才市浦た正登氏経営のカツエー店創設者
の「待遇改善要求問題」はその後どうあつてゐるか? 其後の
藤田氏の態度はど二か? 店員への約束は果して忠実に実
行されてゐるや否や? 今は同店を解雇されでゐることは云
へ外部からこの待遇改善要求の實現工期として圖つてゐる
西岩三氏の報告主たに譲げる。

○我々は昭和十二年三月正登氏の理由に基き同志一同の名によつてカフエー「カマチ」店主讃丸正登氏に対し、永年に亘り氏が執り束れる使用人に對する弊風を打破すべく待遇改善を要求して起つた。これは當時紙上に時報紙上に發表して同胞諸賢に我々の意の存する意匠説へたから世間周知の事実である。

○然し乍ら、我々が待遇改善要求は動き起すと同時に、日本時報紙は一二回曖昧の記述を掲載し、続いて我々から抗議文を依頼せる事件の真相と頭かにせよ、採書に対するは、同紙は問題が「重大問題」あるの故にして採書は保管すること書いた、然し一度時報紙上に我々の採書が発表されるや新村社長は急遽当

口サリ大市に出現して来た。何の目的で? だが当市在留同胞として此も新村氏の口市出現はいゝて何れは誰一人知らなかつた。がニ・アラ新報紙の記事によつて、新村氏は帰武後はもよく紙上に一月十七日新村氏退口市之事実が公にされただのであつた。そして新村氏は帰武後はもよく紙上には公平ある立場から見る」カフエー林にて前後三四回に亘り陳飯物の苦難た氏擁護の記事を覽々しく發表してゐる。茲に於て吾々に諒解出来ない事は、「公平ある立場からう」眞相を發表し批判を爲すべき新村氏が口市出現の際何故我々同志との面会を避け、我々の主張して知る事が出来る。況してか

さあ一かのて時事紙に枚書する
の正差控へてゐた、然し今こゝに
其後の蒲地氏の行動の眞相を發
表し併せて巨室時事紙の誤報正直
すことは我々の義務と考へる。

へん葬式正生す
一集めた事一美
だら同氏曰く「ケ
ン、ディーホ」
れい聽意主
ハ言を信し機
れい事は此
例は挙げれば教
年君の豪氣へ應
一ヶ月分り月給
君の入院は際
涼養中欠勤した
引いてゐる。又
一ヶ月以上も病
人も風舞はふかく
氏夫妻が吹聴す
あがら退居する
である。由来
ぐ同胞は想白月

蒲地氏の店に於て、此れが蒲地の店にて、根正接する家屋的侍の者との事とす。

○我々種姓氏族が、何名の職業から、當て難いと申す。されど、當て難いと申すことは、必ずしも不當の中の同一モーソーを持たせたりした。本人の又たゞだけあ。後は一

は徹頭徹尾誠意があつて、
敢ふれば労働局に於ては一
牲畜も出さぬと聲明し、か
去る一月未日に至り何等正
直無くして同店に就職中あ
志二名は三ヶ月間の休職を
又た他の一名を解雇する等
を敢てしてゐる。現在就労
志に対する態度も同様で
ふどには場所の悪ハ所を受
たりビジャールの掛りへ廻
して待遇に差別をつけ、
言發的退店を謀つて居り
配人との流石蒲地氏の配下
つて、プロビーナ制実施
へのモーション三つを四つのメ
が渡さいと放言してゐる。
て彼等は鉛込も我々同志

側の主張は、扶民せんための只言
地氏のみに因當して秘密執行に
ふすふど、正義と尊直を愛すべき
新国人を孰らざる、又孰るべか
らざる道ではあいか、而して曰
西馬事院上に參考された裏話の
ものは新村氏が口市ヶ井情に会
く意想ある三日うち曝露せる出體
曰あ様遣記書であつた、
○我々は臣時書紙に蒲地氏の態
度如何と發表された時に、我々も
筆立執つて反駁する考へがあつ
たが、蒲地氏は三月十六日よりア
ローナ御度を実行することを、
○蒲地氏は守衛官に公頭の際
長の面前では云々と、私は今
迄多くの日本人を助けて貰ま
たが、蒲地氏は從から助けられで
があつたらお目にかゝりまへ
主人に持つても宿疾の弊はない
院将まで支給を乞うした時は
式賈用まで支払つた云々。
他人が知らまいと思つての虚標
畢竟には述べてゐる、氏の言
ふるうが故に蒲地氏は自分の後

○又、萬代氏はよく日本人の本
性に關して口にするが、今度の
問題發生後も度々日本人の体
面云々と板江に及へながら強いて
追求すればそれ又一言お皮膜を
出来ない始末である。口元では
斯くとも日本人の代表者なるべ
き人物が学園高長へ前で泣き、
在詰ると云ふことは、日頃日本
人の体面を重視する萬代氏に
とつて甚だしき矛盾之云はざる
事得あり。

Año XIII N.º 671

EL "ARGENTIN DJIJO"

Correo Argentino
Tarifa Reducida
Concesión 718

Buenos Aires, sábado 20 de Marzo de 1937

SECCION CASTELLANA

Dirección: USPALLATA 981 U. T. 23-7051

La posición de la mujer japonesa en la familia

Por Mrs. HAZEL GORHAM

(De la Revista Cultural Nippon, de Tokio)

Cuando yo vine por primera vez al Japón, muchos europeos residentes y también algunos caballeros japoneses, me dijeron que la esposa japonesa era la sirvienta principal de su esposo. Si yo me hubiese regresado a mi país entonces, nunca habría dudado de tales afirmaciones; pero el caso es que yo me he quedado aquí para comprobar lo contrario.

La primera sirvienta que yo tuve en el Japón me habló en mi propia lengua; es evidente, pues, que la educación femenina no estaba del todo deseñada, como pretenden algunos. Al poco tiempo inicié el cultivo de las amistades con las damas japonesas, enterándome de que la vida de hogar de ellas no difería en mucho de la de mis amigas de Inglaterra.

Mientras me divertía al cerciorarme de que no había libro sobre el Japón que no hablara sobre el tema, mis amigos japoneses se enorgullecían al repetir que su Emperador había recibido la orden de la Diosa Amaterasu a fin de gobernar sobre esa tierra. Cómo he de reconciliar la reverencia por "Amaterasu-O-mi-kami" con la posición social tan baja de la mujer actual, era mi problema. Pensé que debía existir alguna explicación y la he hallado a mi satisfacción. La idea de la inferioridad de la mujer ha sido impuesta al Japón por influencias extranjeras, sin que el hombre ni la mujer hayan llegado a someterse en verdad a esa creencia. Espero demostrar con esta exposición las razones que me han ayudado para alcanzar a mi conclusión.

Las bases del sistema social de la familia del Japón remontan a la edad mitológica. Toda nación posee su propia historia, sus tradiciones y características, y el Japón es único en algunos respectos.

Hay muchas opiniones referentes al origen del pueblo japonés, pero todos están contestes en que desde el comienzo de su vida nacional bajo el reinado del Emperador Jinmu, ha 26 siglos, los japoneses han vivido bajo el mismo régimen de gobierno, manteniendo su unidad étnica con un solo idioma, costumbres y modo de vida iguales. En conformidad con su tradición, los japoneses creen que ellos descenden de los mismos antecesores de la Familia Imperial, y ésta la más original de todas. Veneran los antecesores comunes para todos, pero consideran al Emperador como el jefe supremo de la gran familia, nación.

Las primeras migraciones llegadas al Japón fueron de familias y no individuales. En japonés antiguo, "omo" quiere decir madre, y esa palabra sigue de raíz para "omoni"; principalmente; "omote", superficie o frente; "oyake", público; "oya", padres. La madre era una persona tan importante en la familia que cuando ella actuaba como jefe de la casa, ésta se denominaba "omo-ya", significando la casa de la madre. La madre era la cabeza o "kami" de la casa. Hoy existe una palabra para esposa, de uso común: O-kami-san" que eti-

mológicamente significa "honorable jefe". La mujer tuvo, pues, una posición dominante en la familia antigua del Japón hasta que las fuerzas combinadas de las enseñanzas del Budismo y la expansión del espíritu militar han hecho elevar la posición social de los varones a costa de la de las mujeres.

La historia japonesa anterior al Emperador Jinmu, como lo dije más arriba, está mezclada con la mitología, pero los anales chinos de las dinastías Han y Wei refieren al Japón como "El país de la Reina" y narra algunos pasajes, lo que del Nihongi o tradiciones antiguas del Japón nos enseña, confirmando que en ese período de la historia japonesa la mujer gozaba del mismo derecho que el hombre.

(Continuará).

No habrá guerra entre el Japón y la Unión si esta es sincera

El senador norteamericano, Mr. Lewis, en un discurso pronunciado en la alta cámara de los Estados Unidos el sábado 13 del corriente, declaró que existe el peligro de una guerra entre el Japón y los Estados Unidos, y que el abandono de la fiscalización de las islas Filipinas en un porvenir cercano, constituye para los Estados Unidos un absurdo desde el punto de vista nacional. Puso, además, de manifiesto, que los Estados Unidos se hallan aislados por la alianza de Berlín y Tokio, y otras alianzas en el mundo, para llegar a la conclusión de que era menester reservar las Filipinas como bases navales de su país.

Con frecuencia, por desgracia, hacen esta clase de declaraciones los políticos americanos, quienes pretenden impresionar al público y para dar mayor importancia a sus argumentos, pero sin miramiento alguno acerca de los efectos de tales manifestaciones que, en resumidas cuentas, hacen daño a la política extranjera de su país.

Es muy posible que muchos de los americanos piensen como el senador Lewis, porque al ambición americana de dominar el Pacífico es cosa sabida; pero los hombres dirigentes de la Unión saben medir sus propósitos y aspiran a llevar a la práctica la llamada política de buena vecindad del Presidente Roosevelt, y el sensato pueblo de los Estados Unidos comprende la necesidad de respetar los derechos ajenos, como ellos quieren que otros los hagan para con ellos.

Así como los americanos no quieren que otros se entrometan en sus asuntos, otros pueden y tienen que querer la misma cosa. Es por esa noción noble que los Estados Unidos han resuelto dejar independientes a los filipinos, que merecieron la confianza de la Nación Americana como pueblo digno de ser libres.

En cuanto a las relaciones entre el Japón y los Estados Unidos, los dos gobiernos están contestes en que no hay absolutamente nada que pueda destruir la amistad tradicional que los liga. El gobierno de Washington, mejor que ningún otro gobierno, conoce a fondo el pensamiento del Japón y su política exterior, que está inspirada en franco pacifismo, a pesar de las indicaciones contrarias

que propalan los demagogos y que a menudo consiguen llenar las páginas de periódicos tendenciosos.

Las relaciones americano-japonesas son, hoy como ayer, muy cordiales y nada puede romper sus lazos, al menos de parte del Japón. Si los Estados Unidos cambian de su táctica nacional, si el Tío Sam se cree facultado para hacer en el futuro lo que han hecho otras potencias del viejo mundo en sus relaciones con el Oriente, entonces, sólo entonces verá que el cortés amigo de allende el Pacífico, —que siempre sabrá defender su honor,— está listo para hacer frente a cualquier ultraje.

El Japón busca la paz a toda costa, pero no descienda su seguridad, porque sabe, por experiencia, las modalidades de las potencias, que no han aprendido a ser leales a sus propios principios. Si los Estados Unidos buscan la guerra contra el Japón, éste sabrá defendérse como lo ha hecho siempre en su larga historia de 2600 años.

Mientras tanto, cabemos expresar en estas líneas que el pueblo del Japón no piensa ni en la remota posibilidad de una guerra entre su país con los Estados Unidos, gran nación americana de la cual ha aprendido tanto, y con la cual espera trabajar en armonía para la concordia universal y por el bienestar de los pueblos del mundo. El Japón cree que todas las naciones grandes deben darse cuenta de las enormes responsabilidades que tienen contraídas para con el mundo para mejorar las condiciones generales de la humanidad. Las naciones del futuro no se deberán sólo para sí, sino para todos; para que sea una realidad la paz de los pueblos, de la que tanto se habla, es necesario que impere la convicción que tienen los japoneses de que anhelan encontrar medios de una franca cooperación de todos los hombres de la tierra hacia la felicidad general en la tierra.

Cuando los hombres del occidente sean capaces de meditar con calma sobre las enseñanzas dejadas por la última guerra, y comprendan que con el egoísmo no se consigue la paz; que es preciso practicar las sabias enseñanzas de Buda y de Cristo, que son idénticas en el fondo, nadie tendrá que hacer caso a los demagogos, que desaparecerán de las sociedades civilizadas.

"LA TIERRA NUEVA"

Película japonesa que hará furor

La película producida en Japón bajo la dirección del Dr. Arnold Fank, de Alemania, de la cual hemos anunciado en nuestro número anterior que se titula "La Tierra Nueva", es una cinta que presenta un conjunto de panoramas y costumbres del Japón actual, en sucesión natural del desarrollo del argumento que gira alrededor de un joven estudiante.

Teruo Yamato, el héroe de la novela, se va a Alemania a estudiar y vuelve al Japón después de 8 años. Durante la travesía entabla relaciones amistosas con Gerda, joven periodista alemana que va al Japón en viaje de estudios, y nace entre ellos el amor, que es la causa que teje esta interesante historia.

Teruo, hijo de un labrador pobre, fué adoptado por la familia Yamato, en calidad de futuro esposo de la heredera de la casa, la señorita Mitsuko. Mas su larga permanencia en Europa le hace pen-

SINTONICE EL PROGRAMA DE LA

Osaka Shosen Kaisha

todos los miércoles a las 19 horas.

POR  RÁDIO EXCELSIOR

LAMPARAS "YAMADA" DE CALIDAD



En venta en las buenas casas del ramo

:Beba buen café!

EL CAFÉ DE SANTOS "AGUILA" está elaborado con los mejores cafés que se importan del Brasil, tostados y con un 10 % de azúcar abrillantado. ¡Nada más!

Muchos cafés que por ahí se venden, ¿podrían afirmar otro tanto?

Deduzca Vd. y prefiera el

CAFÉ DE SANTOS "AGUILA"

ES UN PRODUCTO SAINT.

sar sobre la inmoralidad del casamiento sin amor, lo que hace que su trato con Mitsuko sea frío ante el amor inocente de ésta que se muestra contenta y cariñosa por el regreso de su novio y la próxima realización de su sueño.

Producen escenas que describen el conflicto de las ideas europea y japonesa, y Mitsuko, desilusionada, intenta suicidarse yendo al cráter de un volcán, siendo, sin embargo, salvada por el propio novio, quien, arrepentido de su actitud corre en su socorro.

Se casan y son felices, y se dirigen a Manchukuo, la "Tierra Nueva", con el plan de trabajar en una empresa colonizadora en gran escala.

En el transcurso de esta novela, la cinta abarca un mundo de cosas del Japón. Al presentar el hogar paterno de Teruo, detalla la vida de las aldeas agrícolas que atraviesan una época penosa por causa de la crisis: la vida de obrera industrial que pasa la hermana del héroe; la vida holgada y prestigiosa del almirante retirado, que es el padre adoptivo; la enseñanza espiritual del Budismo a través del sacerdote amigo de Teruo, en fin, toda la escala social y la ideología que reina en ella.

Se trata, pues, de una película bien representativa del Japón actual, puesto que además se lo expuso, enseña artísticamente combinadas, vistas relacionadas con los progresos recientes del Japón: edificios, industriales y aspectos modernos de la vida en las grandes ciudades, etc.

Reproduce así, en la pantalla, las bellezas espirituales y naturales del Japón, que merecerán la admiración universal.

Actúan en esta cinta los principales artistas del mundo cinematográfico del Japón: Isamu Kosugi, Setsuko Hara, Sesshu Hayakawa, etc.

INAUGUROSE LA EXPOSICION PAN-PACIFICO DE LA PAZ, EN LA CIUDAD DE NAGOYA

Nagoya, marzo 15. — Fué inaugurada con un acto grandioso la Exposición Pan-Pacífico de la Paz, bajo la presencia de S. A. el Príncipe Higashikuni, estando presentes las autoridades nacionales y representantes diplomáticos extranjeros que llegaron expresamente de la capital.

Participan del certamen, que tiene carácter industrial y cultural, 31 naciones, incluyendo los Estados Unidos, Canadá, México, El Salvador, Costa Rica, Guatemala, Honduras, Nicaragua, Panamá, Colombia, Venezuela, Ecuador, Perú, Chile, Brasil, Sudáfrica, India Británica, Siam, India Holandesa, Indo-China, China, etc., etc.

N. DE LA R. — Es realmente lamentable que la Argentina no haya tenido tiempo para concurrir a esta exposición a la cual ha sido invitada oportunamente.

AUMENTO DEL CAPITAL DE LA EMPRESA COLONIZADORA DE MANCHUKUO

Tokio, marzo 15. — La Empresa Colonizadora de Manchukuo, aumentará su capital en 15.000.000 de yens sobre los 35 millones que ya tiene invertido.

EL GOBIERNO DEL JAPON CONTRIBUIRA CON 4.300.000 YENS PARA LA OLIMPIADA

Tokio, marzo 15. — El Gobierno ha resuelto someter a la consideración del parlamento la subvención para la Olimpiada de 1940, estimada en 4.300.000 yens.

ALEMANIA TENDRA REPRESENTACION COMERCIAL EN MANCHUKUO

Berlín, marzo 12. — La Deutsche Nachrichten Büro anuncia que será creada una representación comercial alemana en Manchuria, en aplicación del tratado de comercio firmado el 30 de abril 1936.

El representante comercial manchú ya se encuentra en Berlín; el representante alemán en Hsin-King será el doctor Knoll, consejero de la legación.

VISITA DE PERIODISTA DEL INTERIOR

Hemos sido honrados en la semana pasada con la visita del señor J. Alfredo Miltos de la redacción de "La Voz del Interior" de Córdoba, que se halla en ésta por asuntos de su diario.

El señor Miltos se interesó mucho en obtener informaciones acerca del Japón que, seguramente, ha de utilizarlas para su publicación.

DEPORTE FEMENINO EN EL JAPON

Aparte de la popularidad de los deportes universalmente comunes hoy en todas partes, tennis, natación, automovilismo, reno, golf, aviación, etc., etc., y además de su afición por el dancing, las jóvenes de la sociedad japonesa ejercitan actualmente, como deportes, las antiguas artes del Samurái, que están de moda en Tokio y otros centros urbanos del Japón.

En efecto, las salas y campos de deportes hasta ayer reservados a los hombres están hoy invadidos por las niñas que quieren familiarizarse con el uso y manejo de las armas feudales. Practican, pues, a título de deporte, el arte de defensa por ejecuencia, Jujitsu, lo mismo que esgrima, el manejo de las lanzas, tiros a las flechas, etc.

"NAMBEI" Compañía de Importación y Exportación Sociedad Anónima Telegrams "NAMBEI" U. T. 3001, 3002, 3003, 3004, 3008 y 3571 T. T. Buenos Aires, 904	A. HANAFUSA Representante de Mitsubishi Shoji Kaisha, Ltda. FLORIDA 229 U. T. 38-5480	F. KANEMATSU y Cia. Ltda. Importaciones y Exportaciones JUJUY 136 - U. T. 45, Loria 5823 y 5824	S. TSUJI Importador BALCARCE 682 - U. T. 38 Avda. 5744
SARMIENTO 470 BUENOS AIRES	S. YAMADA y Cia. Importadores MORENO 2039 U. T. Cuyo, 47-4354 y 4405	PIDA SIEMPRE Marca KANEBO PARA TEJIDOS Avda. ROQUE SÁENZ PEÑA 989 U. T. 35-7632 8.º piso Oficina D	LA MAISON SATUMA Objetos de Arte y Antigüedades ESMERALDA 1080 - U. T. 44-4392
K. ANNO The National City Bank of New York BARTOLOME MITRE 502 U. T. Avenida 33 - 4081	IIDA y Cia. Ltda. (Takashimaya) Importadores y Exportadores RODRIGUEZ PEÑA 162 U. T. Mayo 38-2419	M. OMURA Importador de artículos generales del Japón SAN MARTIN 235 - U. T. 38-2088	Sucursal: SUIPACHA 865 - U. T. 31-4887
H. KATO Unica Fábrica Japonesa de Tejidos de Sedas y Gran Instalación de Tintorería HERRERA 2097 y, 2111 - U. T. 21-1841	R. HARA y Cia. Importadores BELGRANO 1470 U. T. Mayo 38-2438 y 9437	S. ANDO y Cia. Importadores BERNARDO DE IRIGOYEN 143 U. T. Mayo 38-1402	Sastrería JAPONESA Fundada en el año 1916 de S. KATAYAMA PIEDRAS 572 - U. T. 33-5452
SADAO HATTORI IMPORTADOR Especialidad en artículos de Cepillería LINIERS 649 - U. T. 45, Loria 3218	CARLOS C. ISHIY Importador y Exportador Bmé. MITRE 341 - U. T. 33 Avda. 9782	JIRO HONDA y Hno. Importadores de Artículos Generales del Japón MORENO 1320 - U. T. 38 Mayo 2718	GUIA JAPONESA LEGACION DEL JAPON: Reconquista 336. — U. T. 31-3193.
KATSUDA y Cia. Importadores MEXICO 1474 - U. T. 38, Mayo 2318	S. YOKOBORI Representante de FUJISAKI y Cia. CANGALLO 499 3er. Piso Escr. N.º 21-22 - U. T. 33-9390	Casa "YAMANAKA" Oriental Fine Art Curious VIAMONTE 624 - U. T. 31 7846	CONSULADO DEL JAPON: Reconquista 336. U. T. 31-3193.
B. TAKINAMI Importador Casa Establecida en el año 1905 VICTORIA 788 - U. T. Mayo 38-2413	TARO MURAI Unica Casa Introducitora de Porcelana "NORITAKE" MAIPU 463 - U. T. Retiro 31-2180	K. YASUNAGA Compañía Argentina, Comercial e Industrial de Pesquería DEFENSA 1597 - U. T. 33-7769	CAMARA DE COMERCIO JAPONESA: Avenida Roque Sáenz Peña 618. — U. T. 33-1452.
I. HIROTA Importador de artículos generales del Japón CHILE 1029 - U. T. 37 (Riv.) 1061			INSTITUTO CULTURAL ARGENTINO-JAPONES: Viamonte 1435.
			ASOCIACION JAPONESA: Patagones 840. — U. T. 23-4893.
			COMPANIA DE VAPORES O. S. K.: Cangallo 462. — U. T. 33-1051 y 1052.